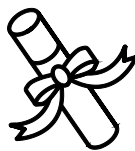


<校訓>



和い進む



大野小だより 令和元年度 第13号

令和2年3月19日発行

TEL: 42-1011 FAX: 43-7268

E-mail: ohnosh@tac-net.ne.jp

令和元年度 卒業式 式辞 『人生に 自動ドアはない』

肌に触れる空気も柔らかくなってきました。桜のつぼみも膨らみ、春の訪れを感じます。

ただ今、42名の皆さんに、卒業証書を授与しました。卒業おめでとうございます。卒業証書には、19文字「右は小学校の課程を卒業したことを証する」とだけ書かれています。今、手にしている卒業証書にはおよそ12年間生きてきた皆さんの人生の半分がつまっています。大切にしてください。

さて、この式辞は、私から卒業していく皆さんへの最後の贈り物になります。

まず、これを見てください。私が大切にしているトランペットです。

今からちょうど35年前の頃のことでした。「俺のところに、トランペットのレッスンに来ないか？」と、あるトランペットの先生が声をかけてくださいました。その時は、将来どうなるかということは全く考えませんでした。とにかく「上手になりたい」それだけでした。レッスンでは、先生はよくほめてくださいました。その一方で、できていないところは諦めないで厳しく指導してくださいました。上達したければ「言い訳をするな」が口癖でした。言い訳をしても、既にした演奏（結果）は変わらないからです。

皆さんは、佐渡 裕 さんという指揮者を知っているでしょうか。世界の超一流のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団で指揮をし、テレビの「題名のない音楽会」にも出演してみえた有名な指揮者です。その佐渡さんは「勇気をもってチャレンジする経験と失敗するという経験を大切にしてほしい。」と言っています。佐渡さんは、20歳頃から指揮の仕事を始めましたが、28歳で初めて大きな国際指揮者コンクールで優勝するまでは、さんざんコンクールに落ち、また優勝した後も全然仕事が来なかった時期もあり、「成功と失敗」、「達成感と挫折感」を味わってきたそうです。そんな、佐渡さんが、次のようなことを言っています。

「チャレンジするには勇気が必要である。チャレンジしても2回、3回と失敗することもある。でも、そのときの『くやしき』が自分をつくるエネルギーになる。そんな体験をぜひしてほしい。『人生に自動ドアはない』。人生には勇気をもって自分の力で開けなければならない扉がいっぱいある。それは、年齢や状況が違って同じ。自分が超一流のオーケストラの前で指揮する勇気。野球選手のイチロー（当時）がバッターボックスでボールを選ぶ勇気。それらの勇気は、小中学生が授業中に手を上げる勇気と、真剣さという点では何も変わらない。勇気を出して授業中に手を上げた体験は、その後の人生で一步を踏み出す勇気につながる。」そう言っています。

これから、皆さんの前にはいろいろな扉が現れます。でも人生に自動ドアはありません。私のトランペットの先生が「俺のところに来ないか？」と声をかけてくださった瞬間は、私の人生において大切な扉の前に立った瞬間でした。卒業生の皆さん。これから自分の前に現れる扉を、自分の力で、勇気をもって開けて、前に進んで行ってください。

さて、本来なら、この会場には皆さんのお家の方や地域の方がおみえになる予定でした。しかし、本年度は残念ながら参列いただくことができませんでした。皆さんの卒業を誰よりも喜んでいるのは、皆さんのお家の方です。そして、今日皆さんが無事に卒業を迎えられるのも皆さんのお家の方や地域の方のお陰です。ぜひ感謝の気持ちを忘れず、その気持ちを言葉で伝えてください。

最後に卒業生の皆さんに、私からも一つ最後の贈り物をしたいと思います。（♪「ふるさと」♪）

日本を代表する唱歌の「ふるさと」を演奏しました。小学校の6年間、楽しいことも、苦しいこともあったかもしれませんが、今ここにいる42名の卒業生の皆さんにとって、この大野小学校は「ふるさと」になります。これから、「ふるさと」がいくつかできるかもしれませんが、この大野小学校という「ふるさと」を大切にしてください。間もなくこの大野小学校は、満60歳を迎えます。「和して進む」そして「日本一みんなにっこり大野小」という伝統「襷（たすき）」を受け継いで、私たちは在校生とともに「ふるさと」の大野小学校を大切にしていきたいと思います。

皆さんは令和最初の卒業生。令和の時代は、まさしく皆さんの時代です。

令和最初の卒業生の皆さんの輝かしい未来を願い、式辞といたします。

令和2年3月19日 常滑市立大野小学校長 齋田強一

一年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

(校長 齋田強一)